

A wide-angle photograph of a large suspension bridge, likely the Akashi Kaikyo Bridge, spanning a deep blue body of water. The bridge features two massive white pylons with rectangular openings, connected by numerous stay cables. The bridge deck is visible, with vehicles traveling across it. In the background, there are green, hilly islands and a clear blue sky. A small boat is visible in the water below the bridge.

Ⅱ. 平成17年度決算状況

平成 17 年度決算の特色

● コア業務純益・経常利益・当期純利益ともに過去最高

**3年連続増益
1円増配(年7円)**

預金等残高 4兆1,154億円、年間増加額 1,609億円、増加率 +4.1%
～4兆円の大台を突破し、順調に増加～

貸出金残高 3兆 421億円、年間増加額 1,639億円、増加率 +5.7%
～3兆円の大台を突破、事業性貸出金が増加基調に～

信用コスト 36億円と大きく減少 ～17年3月期比▲25億円～

預り資産残高年間 1,076億円増加、増加率+67.1%
～預り資産関係手数料11億円増加～

● 高い安全性・健全性を示す諸指標

17年10月に格付取得(R&I)

AA-(安定的)

不良債権比率は2.49%まで低下 ～17年3月期比▲0.79ポイント～

自己資本比率(国際統一基準・連結)は12.16% ～17年3月期比+0.26ポイント～

有価証券評価益は1,968億円 ～17年3月期比+674億円～

損益状況

● **2年連続増収・3年連続増益 コア業務純益・経常利益・当期純利益ともに過去最高益を更新**

- **コア業務純益** … 資金利益・役務取引等利益増加により前年度比22億円増加し、**336億円に**
- **経常利益** … コア業務純益増加、信用コスト減少により前年度比41億円増加し、**299億円に**
- **当期純利益** … 信用コストの減少により前年度比14億円増加し、**193億円に**

平成17年度決算(単体)

(単位: 百万円)

	17/3	18/3	前年度比	増減率
業務粗利益	76,890	77,468	+ 578	+ 0.8%
資金利益	69,568	71,013	+ 1,445	
役務取引等利益	5,580	6,563	+ 983	
その他業務利益	1,741	▲ 108	▲ 1,849	
(国債等債券関係損益)	(+694)	(▲ 868)	(▲ 1,562)	
経費(▲)	44,723	44,662	▲ 61	▲ 0.1%
人件費	24,438	24,477	+ 39	
物件費	18,047	18,037	▲ 10	
税金	2,237	2,147	▲ 90	
①一般貸倒引当金繰入額(▲)	321	▲ 776	▲ 1,097	
業務純益	31,845	33,583	+ 1,738	+ 5.5%
コア業務純益(注)	31,473	33,674	+ 2,201	+ 7.0%
臨時損益	▲ 6,029	▲ 3,604	+ 2,425	
②不良債権処理額等(▲)	5,767	4,379	▲ 1,388	
株式関係損益	104	355	+ 251	
その他の臨時損益	▲ 366	419	+ 785	
経常利益	25,816	29,979	+ 4,163	+ 16.1%
特別損益	3,328	1,491	▲ 1,837	
うち固定資産減損損失	▲ 141	▲ 219	▲ 78	
うち償却債権取立益	3,525	1,875	▲ 1,650	
税引前当期純利益	29,144	31,470	+ 2,326	
当期純利益	17,920	19,361	+ 1,441	+ 8.0%
経常収益	86,996	91,175	+ 4,179	+ 4.8%

前年度(17/3)比の主な増減要因等

業務粗利益(前年度比+578百万円)

- 資金利益 … 貸出金および有価証券運用の増強と株式等の配当利回り向上により増加
 - 役務取引等利益 … 投資信託の販売が好調に推移したことにより増加
 - その他業務利益 … 利回り向上を目的とした外貨建債券入替取引の実施により、債券売却損が発生
- なお、債券関係損益を除く「コア業務粗利益」は、前年度比21億円増加

● 信用コスト(①+②) … 36億円(前年度比▲25億円)

①一般貸倒引当金繰入額(前年度比▲1,097百万円)

一般貸倒引当金は8億円の取崩し

②不良債権処理額(前年度比▲1,388百万円)

企業再生への積極的な取組みや不良債権の新規発生減少によって、不良債権処理額が44億円に減少

特別損益(前年度比▲1,837百万円)

償却債権取立益が減少したことを主因に前年度比18億円の減少

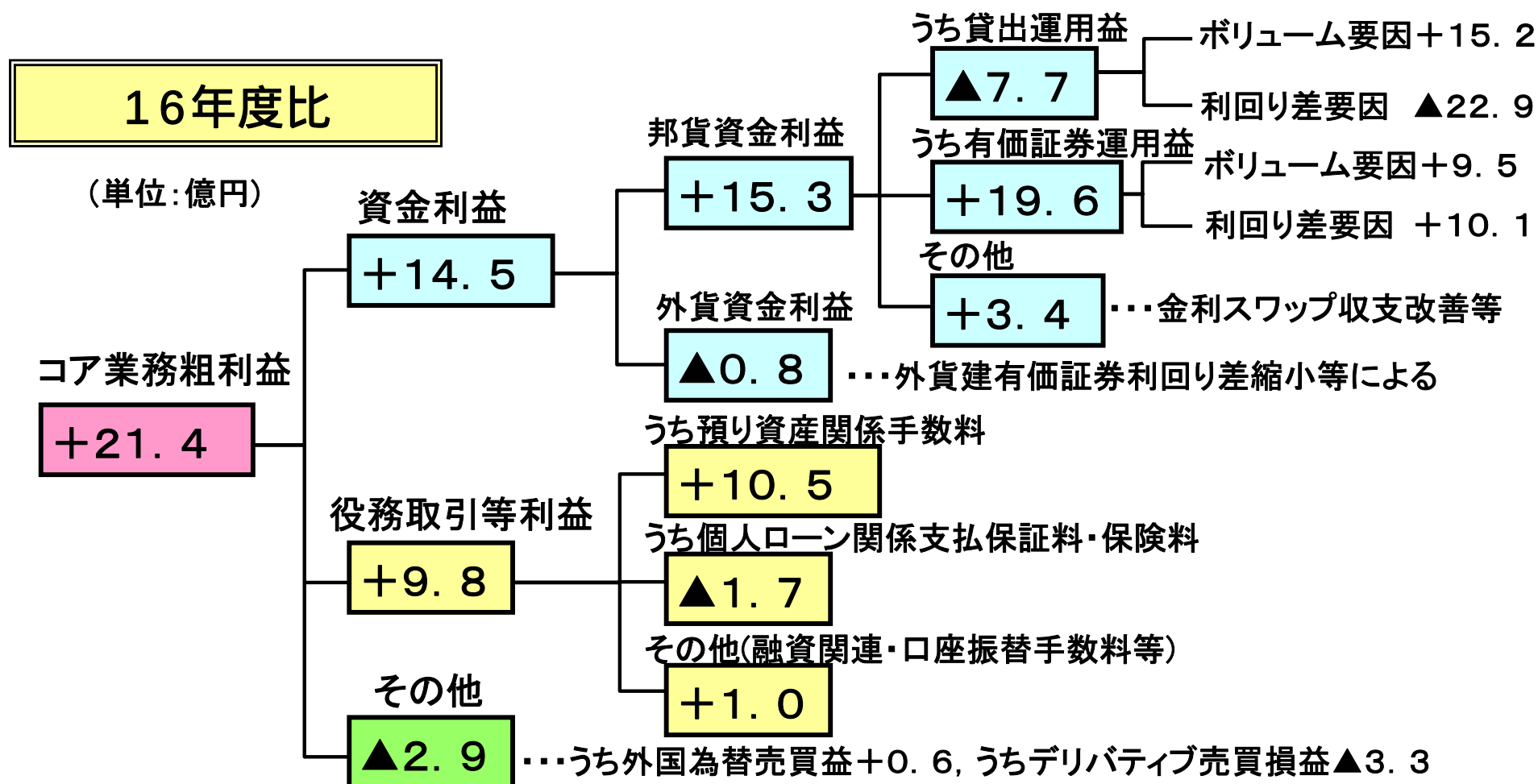
年間配当金7円(前年度比+1円)

当期の業績等を勘案し、年間配当を1円増額し7円に増配は前年度に続き2年連続

(注)コア業務純益…債券関係損益を除く 一般貸倒引当金繰入前「業務純益」

17年度コア業務粗利益増減要因

- 邦貨資金利益 … 貸出・有価証券の運用増加および株式・投資信託の配当率向上により増益
- 外貨資金利益 … 調達利回り上昇による外貨建有価証券利回り差縮小により減益
- 役務取引等利益 … 投資信託窓販増強により増加



預貸金の状況

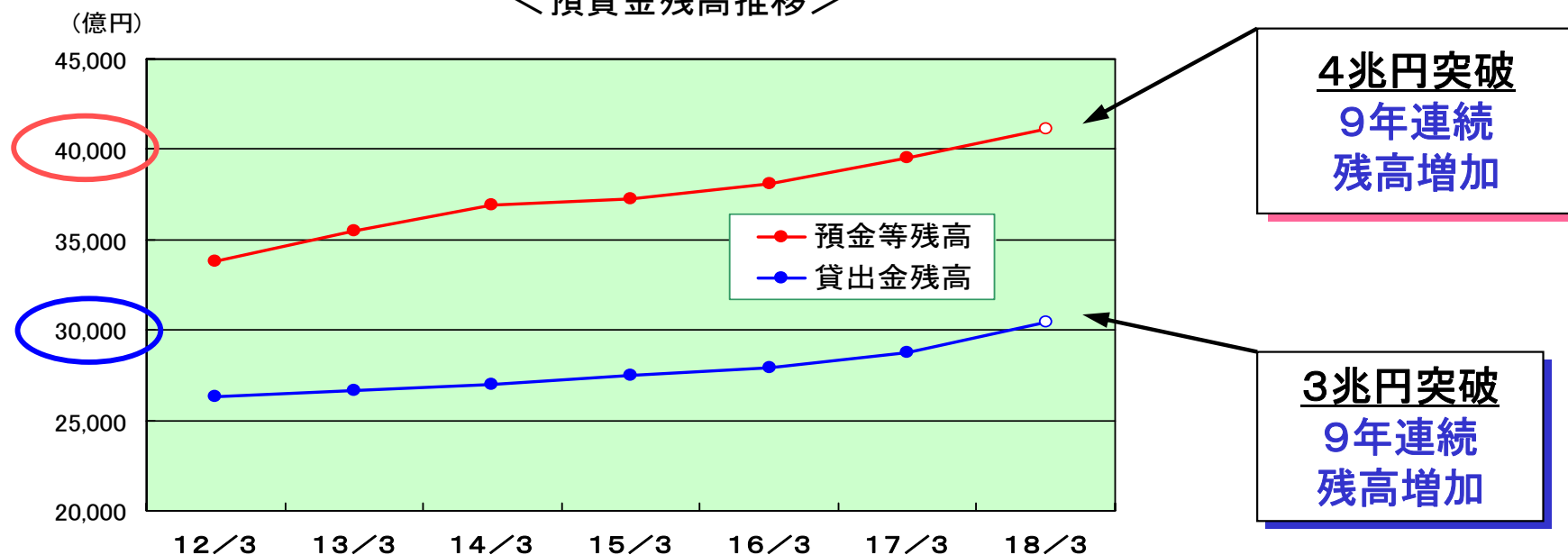
- 預金等(含む譲渡性預金) … 順調に増加し、**4兆円の大台を突破**
- 貸出金 … 「新規開拓5,000先運動」による事業性貸出の増加と住宅資金を中心とした個人融資の増加により、**3兆円の大台を突破**

＜預貸金残高推移(単体)＞

(億円)

	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	前年度比	増加率
預金等残高	33,778	35,487	36,885	37,256	38,066	39,545	41,154	+ 1,609	+ 4.1%
うち個人預金	22,782	23,721	25,231	25,744	25,980	26,532	26,668	+ 136	+ 0.5%
貸出金残高	26,278	26,664	26,979	27,488	27,896	28,782	30,421	+ 1,639	+ 5.7%
うち個人融資	4,863	5,034	5,948	6,449	6,937	7,300	7,771	+ 471	+ 6.5%

＜預貸金残高推移＞



開示不良債権の状況

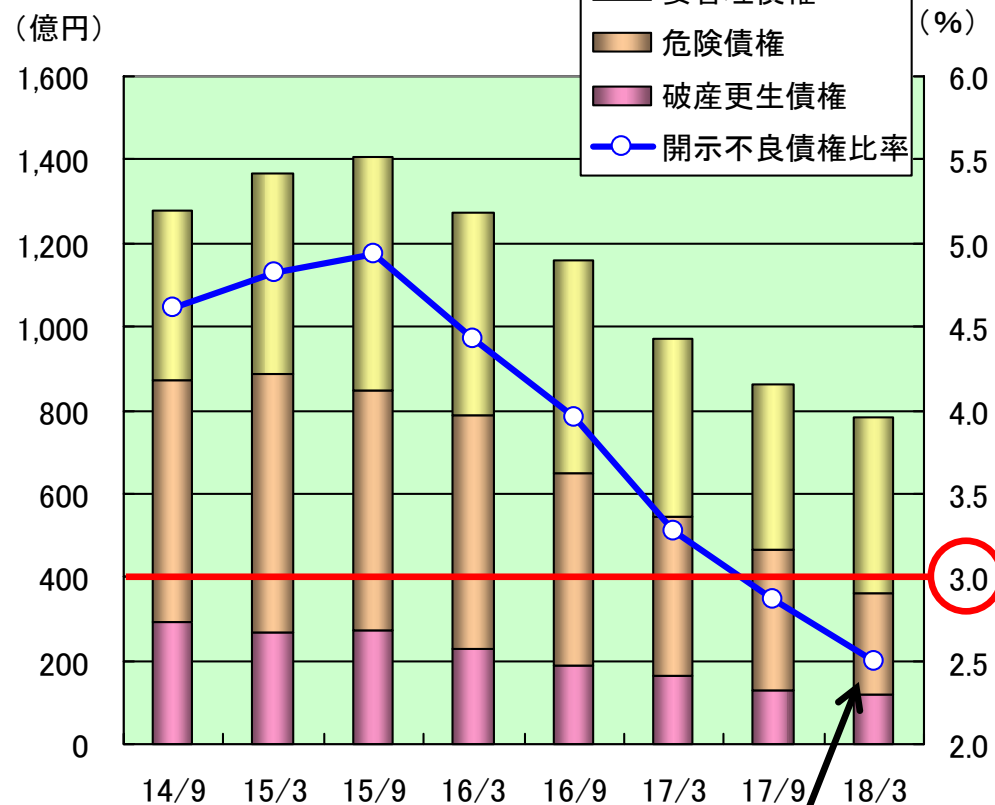
● 開示不良債権比率 2%台半ばまで低下

- 金融再生法基準開示不良債権額は、17年3月期と比べて190億円減少し782億円
- 開示不良債権比率は2.49%と2%台半ばまで低下、
2003年度中期経営計画の修正目標「不良債権比率3%以下(18年3月末)」を達成

＜金融再生法開示基準による不良債権＞

	17/3	17/9	18/3	(億円)	
				17/9比	17/3比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	161	131	119	▲ 12	▲ 42
危険債権	383	333	241	▲ 92	▲ 142
要管理債権	427	399	422	23	▲ 5
開示不良債権合計(A)	972	863	782	▲ 81	▲ 190
正常債権	28,668	29,228	30,561	+ 1,333	+ 1,893
合 計	29,640	30,092	31,343	+ 1,251	+ 1,703
開示不良債権比率	3.28%	2.87%	2.49%	▲ 0.38%	▲ 0.79%
保全額(B)	850	758	658	▲ 100	▲ 192
貸倒引当金	351	312	258	▲ 54	▲ 93
担保保証等	498	446	399	▲ 47	▲ 99
保全率(B)／(A)	87.39%	87.78%	84.08%	▲ 3.70%	▲ 3.31%

＜開示債権額・比率推移＞



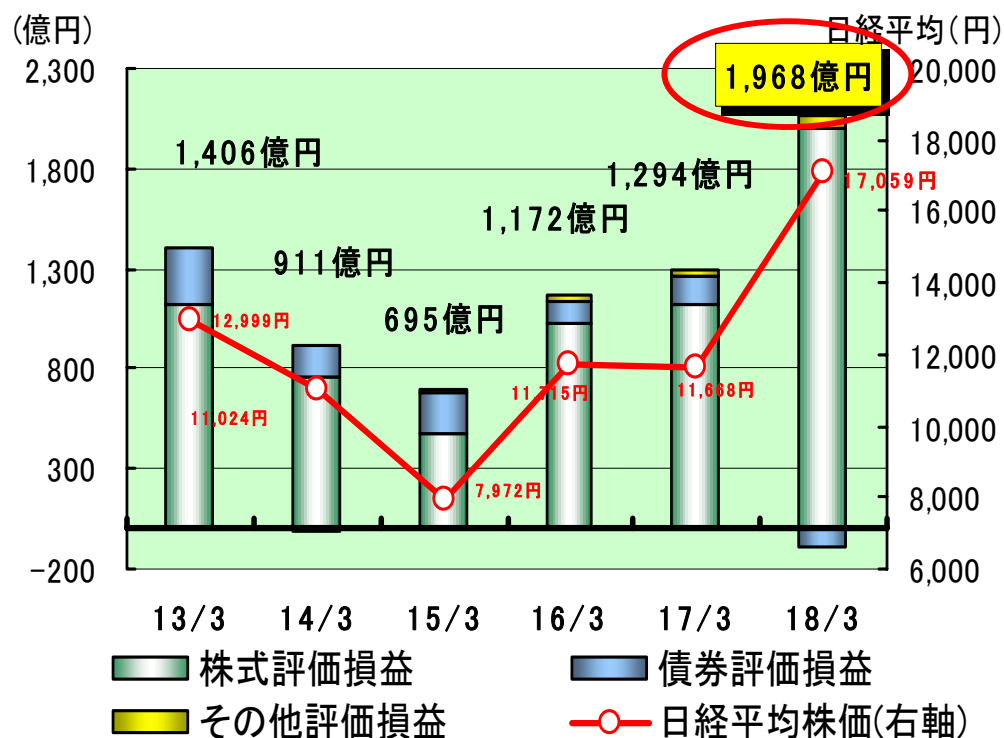
開示不良債権比率 2.49%

有価証券評価益および自己資本比率の状況

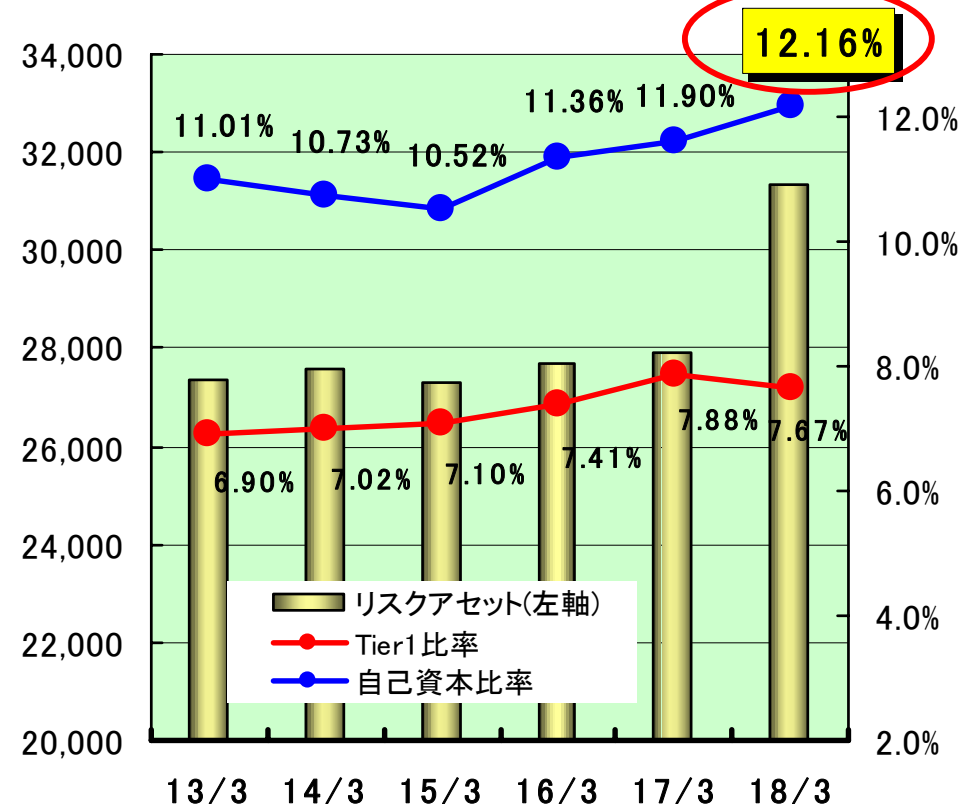
- 株価上昇により有価証券評価益は **1,968億円と高水準を維持**
- 連結ベース自己資本比率(国際統一基準)は **12.16%(過去最高)**
- R&Iによる外部格付 **「AA-」を取得** (平成17年10月)

高い
健全性

＜有価証券評価益の推移＞



＜自己資本比率(連結)の推移＞



18年度業績予想



18年度の当期純利益は、預り資産関係損益の増加等により、**過去最高益の更新** となる **200億円** の計上を見込む

単体	16年度	17年度	増減	増減率		18年度予想	増減	増減率
経常収益	86,996	91,175	+ 4,179	+ 4.8%		94,000	+ 2,825	+ 3.1%
経常費用	61,180	61,196	+ 16	+ 0.0%		63,000	+ 1,804	+ 2.9%
経常利益	25,816	29,979	+ 4,163	+ 16.1%		31,000	+ 1,021	+ 3.4%
税引前当期純利益	29,144	31,470	+ 2,326	+ 8.0%		32,500	+ 1,030	+ 3.3%
当期純利益	17,920	19,361	+ 1,441	+ 8.0%		20,000	+ 639	+ 3.3%
業務純益	31,845	33,583	+ 1,738	+ 5.5%		36,500	+ 2,917	+ 8.7%
コア業務純益	31,473	33,674	+ 2,201	+ 7.0%		34,500	+ 826	+ 2.5%

連結	16年度	17年度	増減	増減率	連単差 (注)	18年度予想	増減	増減率
経常収益	103,137	106,823	+ 3,686	+ 3.6%	15,648	110,000	+ 3,177	+ 3.0%
経常利益	27,585	32,159	+ 4,574	+ 16.6%	2,180	33,500	+ 1,341	+ 4.2%
当期純利益	18,015	19,484	+ 1,469	+ 8.2%	123	20,100	+ 616	+ 3.2%

(注) 連結と単体の差

連結子会社の当期純利益合計は1,159百万円であるが、その9割程度は当行グループ外の株主に帰属し、連結決算には当行グループの持分である1割程度しか影響しない

2003年度中期経営計画 数値目標達成状況

~ Challenge 357 ~

<平成15年4月~平成18年3月>

- 2003年度中期経営計画を達成
- 2006年度中期経営計画でさらなる成長を目指す

	15/3	16/3	17/3	18/3 実績	18/3 目標
コア業務純益	291億円	306億円	315億円	336億円	320億円 以上
不良債権比率	4.82%	4.43%	3.28%	2.49%	3%以下
O H R 比 率	61.4%	59.3%	58.7%	57.0%	50%台
R O E 比 率	0.78%	5.27%	7.86%	7.92%	7%以上

(注)ROE比率は株主資本から株式等の含み益を除いたベース